

## 成長に向けての原子力戦略策定におけるポイントの整理（案）

平成 22 年 2 月 18 日

原子力政策担当室

（本資料は、成長に向けての原子力戦略を策定するに当たって、特に議論すべきポイントを整理するため、第 6 回原子力委員会定例会（平成 22 年 2 月 16 日）での議論を取りまとめたものである。）

政府は、「グリーン・イノベーション」、「ライフ・イノベーション」などを戦略課題とする方針を含む新成長戦略を策定するとしている。原子力委員会は、原子力政策大綱に示す基本的考え方に則って原子力開発利用を着実に進める中で、こうした政府の目指すところに効果的に貢献することができると考える。

### 1) グリーン・イノベーション

原子力発電所を最大限に利用し、発電のための化石燃料の消費を減らすことは、効果の大きい温室効果ガス排出抑制方策である。一方、原子力発電は資本集約的技術であり、国内での設備投資により経済を刺激する効果も期待できる。このための有効かつ重要な施策を戦略として提示にすることが重要である。その際、説得力のある施策とするために、この温室効果ガス排出抑制効果および経済刺激効果を、定量的に、わかりやすく示していくことが必要である。

### 2) ライフ・イノベーション

放射線の利用は医療分野や工業分野を中心に、国民生活の水準向上に寄与している。成長に向けては、これらのさらなる推進が有効であり、そのための施策を明確にすることが重要である。なお、放射線利用の生活水準向上への寄与が国民に十分に認識されていない状況にあり、それを示していく必要がある。

### 3) 国際展開

アジアを中心とする原子力発電新規導入国、拡大国への協力を積極的に進めることはアジアのフロンティアの開拓という強い方向性に適うものである。この推進のためには、原子力産業の国際展開をオールジャパンの体制で行うことが必要である。

この場合、我が国が良いものを作る力を持つとともに、それを求める国に提供できる仕組みが必要である。つまり、単に良いものを作れば、使われるとの発想から脱却し、標準化・国際的なルール作り等の環境整備への積極的な参画が重要である。

### 4) 成長を支えるプラットフォーム

このような施策の推進に必要な原子力技術は様々な基盤技術の上にある応用技術

であることから、基礎的・基盤的研究開発の推進が重要である。原子力技術の開発はエネルギー、放射線利用だけでなく、多様な科学・技術の進展に寄与しうるものである。

長期的な観点から、プロジェクトマネジメント能力を涵養するなどの原子力人材の育成確保の取り組みを進め、国際社会に通用する原子力分野のユニバーサルな人材を育成すべきである。